

自己評価表

学校法人平成医療学園
横浜医療専門学校

1. 学校の教育目標と本年度の重点目標の評価

本校は、徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成することを目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」を育成する。

また、本校では、以下の3つのポリシーに基づいて、医療職業分野や国際社会において、専門性を身に付け、医療人・国際人として必要な人間性やモラルを養成する。

- ①アドミッションポリシー：将来医療人そして世界的に活躍できる国際人として、「人類の健康や健全な生活」に寄与できる人材を育成する。
- ②カリキュラムポリシー：3年間の医療専門課程での学びにおいて教育課程で段階的、系統的に教育できるよう各科目を設定している。
- ③ディプロマポリシー：所定の単位を修得し、規定の能力を身につけた者に対して称号を授与する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 授業の質を高め知識と技術を身に付ける
- (2) 医療に携わるものとしての心構えの育成（人間力の育成）
- (3) 退学者・欠席者の対策
- (4) 国家試験への対策
- (5) 卒業後の進路の充実
- (6) 実技分野の質を高め臨床力を育てる

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(1) 教育理念・目標・育成人材

評価項目	評価	コメント
①理念・目的・目標・育成人材像は定められているか	4・③・2・1	業界団体が作った学校として「現場で動ける医療人」「即戦力となる医療人」「患者を思いやりことができる心を持った医療人」を育てる事を理念として教育して人材育成をしている。 学年ごとに目的に向かいながら到達目標を達成できるように教育を行っている。 実技では臨床現場を想定した実践に近い教育等を行っている。 座学では国家試験の合格を目指して仲間づくりとコミュニケーションを図り、グループ学習を推奨して行っている。
②学校における職業教育の特色は何か	④・3・2・1	専任教員も臨床現場にて学ぶことを行い、その経験の中で学んだ内容を教育していくことにより、臨床現場に必要な知識や技の指導を行う。 国家資格を修得は直近の目標であるが、将来展望に胸躍かせながら、職業人としての経験をしていく社会の窓として多種多様なゼミナール等を実施している。
③社会・各科のニーズ等に合っているか	④・3・2・1	教育課程編成委員会での意見を反映して斯界の臨床家を講師として、臨床現場の実際と経験則を話していただき、個の自立へ職業内容や魅力を知らしめている。臨床家を目指す人材教育に努めている。
④理念・目的・育成人材像は、将来構想などが学生・保護者などに周知されているか	4・③・2・1	年度初めにオリエンテーションを行い周知している。また保護者説明会を行い、教育目的・ビジョン等を話している。 学生のしおりに明記をすることにより学生・保護者に周知している。

<課題>

医療人となる基礎の勉強に対して一定数付いていけない学生がいる。それに伴い学生の基礎力低下、授業に付いていけない学生の退学率が高い状態である。出欠管理の徹底で、落ちこぼれの対処を教員間で実行している過程でありその成果を達成することが課題である。

<今後の改善方策>

- ・小テスト等を行うことにより早期に躓きを発見し指導を行っていきたい。欠席者の勉学フォローをしていく。
- ・授業中の居眠りに対してはその場で注意していく集中力、緊張感をもたせて授業雰囲気を作り上げていく。
- ・欠席が多くなってきた学生を早期より面談や声掛けを専任教員一同を更に実行していくようにする。

<特記事項>

特になし

(2) 学校運営

評価項目	評価	コメント
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	4・③・2・1	運営責任者で会議を開催しその中の決定事項などを各役職者に伝達を行い、そこから科内に行くことにより運営方針が全体にいきわたるようにしている。
②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④・3・2・1	運営責任者らは会議を定期的に行っていることにより運営方針を話し合っている。
③運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか、また有効に機能しているか	4・③・2・1	運営責任者会議で課題を共有してその指示決定を各役職者や教職員への伝達をすることで、有効に機能している。
④人事、給与に関する制度は整備されているか	4・③・2・1	給与・人事等については各種給与規定により運営責任者によって決められている。
⑤教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	④・3・2・1	グループセッション等のネットワークを使用した連絡事項を行ったり、稟議などを申請したりすることができるようになっている。 法人本部と定期的に会議を開催し財務状況や教務報告をしている。
⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4・③・2・1	Instagramやホームページを中心に学校活動の公開を行っている。
⑦情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4・③・2・1	インターネットを使用した連絡を行う事で迅速に周知を行っている。

<課題>

口頭のみで指示することがありニュアンスの違いから内容の取違があるため、上手く動かないことがある

<今後の改善方策>

口頭ではなくメール等の形に残るもので指示が必要

<特記事項>

特になし

(3) 教育活動（柔道整復師科）

評価項目	評価	コメント
①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているのか	4・3・②・1	学力の低い学生に対して、国家試験合格させる教育をどのように構成するかが課題である。
②一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間が確保にされているか	4・③・2・1	一定の到達レベル＝国家資格を取得させる教育目標は国家試験のレベルも上がり達成が年々厳しくなっている。履修時間以外に学生が自ら学習する動機付けを早期から行えるかが課題である。
③学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	4・3・②・1	「統合教育」の時間に国家試験合格に向けた基礎固めを試みたが、効果判定が曖昧であり、改善が必要である。
④医療人の職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているのか	4・3・②・1	医療人としての人間教育をもっと充実させる事が課題である。
⑤関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4・③・2・1	「統合教育」の時間を利用し、企業に「職業理解」に関する講義を積極的に行ってもらった。
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか	4・③・2・1	「統合教育」の時間を利用し、企業に「職業理解」に関する実技を積極的に行ってもらった。
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	4・3・②・1	授業評価は毎回実施されているがフィードバックが遅れや、教員個人評価に反映されていないところが課題である。
⑧職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4・③・2・1	教育課程編成委員会にて、積極的な意見交換ができた。
⑨成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか	④・3・2・1	「学生のしおり」にて明確になっている。
⑩資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	4・3・②・1	学科で設けた国家試験目標合格率に満たなかった。指導方法等検討が必要である。
⑪教育理念・教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4・3・②・1	各教員のバックグラウンドを考慮し、得意な分野で力を発揮してもらえるように構成する事が課題となる。全ての要件を備えた教員は存在しない為、チームとしてアプローチすることが重要と思われる。
⑫関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する取り組みが行われているか	4・3・②・1	非常勤含め技術に長けている人材確保が必要である。
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のため取り組みが行われているか	4・3・②・1	教員各自が外部の研修に参加することが少なく、また学校としてのバックアップもない為に教員の意識改革が必要である。

<課題>

① 学力の低い学生でも試験合格を目指せ、休学・退学につながる意識の低下を防ぐ教育体制の確立
② 国家試験合格率の低下および3年生の国家試験受験者数の低下

<今後の改善方策>

学力の低い学生に対する補講の充実と学生情報の教員間での共有ができるような仕組み作りが今後の改善方法と考える

<特記事項>

特になし

(3) 教育活動（鍼灸師科）

評価項目	評価	コメント
①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているのか	④・③・②・①	課外授業であるゼミナールを開講することで、より現場のニーズに適応できる人材育成に取り組んだ。美容エグゼクシブラン等も行っている。
②一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間が確保されているか	④・③・②・①	3年間の時間数を2680時間と十分に取 り、総合領域や統合教育で各学年に応じた専門分野の充実を図っているとともに国試に向けての知識の定着を行った。
③学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	④・③・②・①	基礎分野で一部専門分野に内容が似たものが展開されていることや、2年次の科目によっては専門基礎分野の基礎と臨床の内容が同時期に進行せざるを得ない等、苦慮するものもある。
④医療人の職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているのか	④・③・②・①	専任教員によって構成される各種委員会によって、職業教育の視点に則ったカリキュラムの見直しや、作成が毎年行われている。
⑤関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④・③・②・①	教育課程編成委員会の開催で、業界団体および臨床経験の深い先生からのご意見や改善点などを指摘・教授いただき、常に改善に努めている。
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか	④・③・②・①	各学年の専門分野（総合領域）において実技・実習・演習を企業からの派遣講師による鍼の製造工程や院の経営等に関する特別授業を行っている。令和7年度から3年生昼間部の外部実習を1部外部での実習としている。
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	④・③・②・①	前期・後期ともに授業終了後、専任教員非常勤教員すべての授業評価アンケートを実施し、その結果を教員に還元する事で、より良い授業を行うためのフィードバックに活かしてもらっている。
⑧職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④・③・②・①	1年に2回、教育課程編成委員会が開催され、業界関係者や有識者からのご意見を頂戴し、カリキュラムに反映することで、教育の向上に努めている。
⑨成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか	④・③・②・①	各学年の年度当初に「学生のしおり」に明記されている成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準に関する読み合わせをおこなう事で、学校と学生との間での認識の差異や齟齬が無いよう努めている。
⑩資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	④・③・②・①	各学年に学年担当教員を3名置ききめ細やかな指導を行っている。
⑪教育理念・教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④・③・②・①	教員の資質向上に向けて学内において、外部講師を招いての教員研修会を実施し、より良い授業や教育を行なえるよう努めている。
⑫関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する取り組みが行われているか	④・③・②・①	教員養成科を要する学校や施設と連携することで、教員の欠員に対し即座に優れた教員を確保できるよう取り組んでいる。
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のため取り組みが行われているか	④・③・②・①	教育課程編成委員会や教員研修会を開催し、外部講師からの意見や講義を受ける事で、業界の最先端知識や技能の修得に繋がるよう努めている。

<課題>

入学生や在校生の業界的ニーズである「鍼灸師としてのスポーツトレーナー」に関する分野がカリキュラムに十分に盛り込まれていない現状がある。

<今後の改善方策>

臨床のスペシャリストや現場経験豊富な臨床家や指導者を、教員あるいは施術所のスタッフなどで採用していくことも必要であると考える。

< 特記事項 >

特になし

(4) 学修成果

評価項目	評価	コメント
①就職率の向上が図られているか	④・3・2・1	毎年夏に大さん橋にて80社を招き全学年が参加する合同就職説明会を実施し1年生から就職について意識させている。
②資格修得率の向上が図られているか	4・3・②・1	資格取得率の低下は、退学率が高い問題と同時に課題である。まずは1年生の退学率を抑え、より魅力的な資格であることをアピールする。
③退学率の低減が図られているか	4・3・②・1	退学の原因が多種にわたるが、学生のモチベーションを如何に上げ保つのか？ここが課題となる。
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4・3・2・①	社会的な活動は一切できていないのが現状である。
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握して学校の教育活動の改善に活用されているか	4・③・2・1	特別授業に卒業生を招き抗議して頂き卒後のイメージをつけやすくさせている。

< 課題 >

それぞれの資格の魅力を学生に伝える事を教員だけでなく、卒業生や業界からも伝え学生に将来的イメージをさせることが必要である。また、入学生の学力に合ったカリキュラム運営や学内イベントを実施し学生のモチベーションを上げる試みを次年度は行っていかなければならない。

< 今後の改善方策 >

学生が自ら参加しようとするような授業方法、学校運営を実施しなければならない。学校だけでなく同窓会や業界を交えて情報交換ができるイベント企画や学校運営をしていく。

< 特記事項 >

特になし

(5) 学生支援

評価項目	評価	コメント
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④・3・2・1	キャリアサポート委員会を中心に就職支援を行っている。現在、求人票をタイムリーに閲覧できるようにクラスルームで配信している。(令和6年度求人企業約150社) 就職相談会を本校主催で72社を招き大規模に開催し、学生には好機と位置付けている。また、卒業年次生未決定者及び1,2年生(希望者)を対象に年度末に小規模な就職相談会を開催し、就職未決定者の対応をした。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4・③・2・1	心理カウンセラーの資格を持つ職員を雇用し、週に1回、学生生活にかかわる様々な相談ができる環境を整えている。年度の初めには授業時間内にカウンセラーが講話をし、気軽に利用するよう呼び掛けている。 一般的には、学生相談の第一段階は担当教員になるので、各担当のファーストコンタクトが大事である。
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④・3・2・1	経済的な支援を必要とする学生に対しては、奨学金・各種ローン利用のアドバイスを行い、納入については延納、分納を認めており、無理のない納入方法を提案している。 令和7年度より高等教育無償化機関要件校に該当するので、支援が必要な学生にとっては重要なファクターであるため、繰り返し案内をした。
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4・③・2・1	学校保健安全法に基づく健康診断を年に1回実施している。また、上述の心理カウンセラーが心の健康管理もおこなっている。
⑤卒業生・在校生のニーズを踏まえた教育活動が整備されているか	4・③・2・1	正規の授業以外に外部の職業有識者を本校に招きゼミナールとして様々な講義を実施している。
⑥卒業生への支援体制はあるか	4・③・2・1	同窓会との連絡を密にとるとともに、卒業生に対しても就職相談会の参加を案内している。また、卒業生に対しても求人情報の提供をして転職のサポートもおこなっている。
⑦保護者と適切に連携しているか	4・3・②・1	事務方が能動的に保護者との連携を取ることはないが、学費延納、分割希望また滞納の際は、学生及び保護者との面談を行い適切なアドバイスをしている。

<課題>

- ・就職支援活動を通じて関係を持った企業との連携および就職後の学生の追跡調査・企業情報の収集
- ・キャリアサポート委員以外の教職員の積極的な協力
- ・学生のニーズ、現状を踏まえた知識・技術の向上を目的としたゼミナールの充実
- ・同窓会と密な連絡を取り、連携を図っていく

<今後の改善方策>

- ・就職先企業への訪問、卒業年次生担当の進路状況把握及び卒業生の動向調査を行う
- ・業界動向をいち早く察知し、ニーズや現状を踏まえたゼミナールの提案を行う
- ・同窓会との積極的な意見交換の場を設け、同窓会を利用し、本校の発展に寄与させる

<特記事項>

特になし

（６）教育環境

評価項目	評価	コメント
①施設・設備等は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	４・③・２・１	養成施設として法令や指導要領を遵守し、必要な施設、備品等は遺漏なく揃っている。
②学内外の臨床実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④・３・２・１	柔整科は、すべて外部の施術所で実施している。鍼灸科は、学内実施をしている。より実践的な臨床実習を目指すために来年度以降の臨床実習は両科ともに外部へ依頼する予定である。海外研修はフィリピンのデ・ラサール大学解剖基礎医学実習を実施し任意の学生が参加した。令和５年度は３０名が参加した。
③防災に対する体制は整備されているか	４・③・２・１	避難訓練を行い避難経路の確認を行っている。また非常用の食料や飲料水の備蓄を行っている。設備についても管理会社による定期点検を実施し、災害時に対処できるよう施設・設備の点検を行い不良箇所の整備を行っている。

<課題>

施設・設備については経年劣化による水漏れ等の不具合や機器の故障が生じている。学生がよりよい環境で学べる学校作りをおこなっていく。

<今後の改善方策>

修繕計画を踏まえた予算組を行い、優先順位を付けた改修を行っていく。

<特記事項>

特になし

(7) 学生募集について

評価項目	評価	コメント
① 高等学校等に対し、情報提供が十分であるか	④・3・2・1	年間を通じて高校訪問を行い、広報活動(学科説明・イベント周知・指定校推薦)を広く周知させており、受験生・卒業生の資格取得状況等の情報提供を行っている。
② 学生募集活動は、適正に行われているか	4・③・2・1	年間で定めた募集戦略に沿い、該当時期のターゲット層に適したイベントを行っている。また、募集状況に合わせて柔軟に募集戦略を修正し、学生募集活動を実施している。
③ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4・③・2・1	オープンキャンパスや学校説明会時に本校での学ぶ内容や資格取得までのサポート、卒業後の進路、卒業生の具体的な活躍を明確に伝えた上で入学を検討してもらっている。
④ 学納金は妥当なものになっているか	④・3・2・1	従来の日本学生支援機構の奨学金制度の説明や国の教育ローンの他、学納金の延納、分納等、個々の学生の事情に十分配慮し、柔軟な対応を行っている。 また、厚生労働省所管の教育訓練給付制度や文部科学省管轄の修学支援新制度を活用している。 学生には複数の奨学金制度を活用できるよう、随時、情報提供を行っている。

<課題>

柔道整復師、鍼灸師について具体的な職業理解を欠いている受験検討者が少なくない。今後、資格取得後の明確な職業説明を行うことが不可欠である。

<今後の改善方策>

オープンキャンパス等のイベントに参加する高校生に対してトレーナー、美容、独立開業などを切り口にこれまで以上に職業理解への細やかな説明が必要である。また、保護者とともに来校する者も増加傾向にあるため、本校卒業生の活躍をモデルケースとして伝え、生徒だけでなく保護者に対しても学校や職業を十分に理解してもらう事で高校新卒者の入学を促していく

<特記事項>

特になし

(8) 財務

評価項目	評価	コメント
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④・3・2・1	施設・設備の老朽化による修繕を見据え、中長期的な修繕計画を策定し、優先順位を付けた上で整備を行っている。また将来的な財政基盤の安定に向け、新たな事業展開に着手し、収益の確保に努めている。
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④・3・2・1	収益目標を定め、入学者数、在学学生数を踏まえ収入、支出の予算計画を立てており無理無駄のない有効性のある運用を行っている。また経費削減のため月単位での収支コントロールを行っている。
③財務について会計監査が適正に行われているか	④・3・2・1	法人内に監査職を設置し、定期的な監査の他、理事・評議委員会場で報告を行っている。
④財務情報公開の体制整備はできているか	4・③・2・1	私立学校法における所定の形式に則り、学園の一部門として宝塚医療大学のホームページで公開している。

<課題>

18歳人口を踏まえ、将来的な視点では現有学科での学生数の減少が避けられないことから、留学生を対象とした日本語学科の事業拡大は必須。加えて新学科の設置を検討するとともに、人件費、教育研究費、管理経費の削減を同時並行で実施し、収益を確保していく必要がある。

<今後の改善方策>

日本語学科の事業拡大と新学科設置など新規事業の検討に着手するとともに、在学学生の退学・除籍のマイナス要因を減らしつつ、長期的な視野に立ち、安定した収入を確保していく。

<特記事項>

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価	コメント
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④・3・2・1	専修学校設置基準、ならびにあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律、柔道整復師に関する法律、柔道整復師に関する学校養成施設認定規則、法律施行規則に基づき教育活動を行っている。
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④・3・2・1	学園が有する個人情報について、学園プライバシー・ポリシーに基づく適正な保護の実現を図っている。 個人情報保護規定に基づき、情報漏洩防止の観点からデータの取り扱い等のルールを策定して運用している。 PC ソフトウェアの最新化、セキュリティー情報の収集など継続的に実施している。
③自己評価の実施と問題点の改善を行い、結果を公表しているか	④・3・2・1	委員会を開催し問題点などを話し合い検討した結果を HP 上に公開している。

<課題>

SNS 等の急速な発達に伴い、学校が保有する個人情報の他、教職員、学生自身が自分の個人情報をいかにして守るかを学ぶ機会を設ける必要がある。

<今後の改善方策>

教職員に対してのネットリテラシー研修の実施、学生には授業の一環としてネットリテラシー教育等を実施していく必要がある。

<特記事項>

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	コメント
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4・③・2・1	横浜市中学校柔道連盟より柔道場の貸し出しを行った。神奈川県柔道整復師会の学術大会会場として貸出し、学会に学生が参加した。
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4・3・②・1	東京マラソンに学生と教員でゴール後のランナーのケアを行っている。
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4・3・②・1	神奈川県柔道整復師会にて地域の公開講座を実施した。

<課題>

学校周辺の地域の人や隣接の保育園との交流など円滑なコミュニケーションや社会貢献活動を奨めていく実行性が必要である。

<今後の改善方策>

- ① スポーツ大会などのボランティア活動等を学校から積極的に参加
- ② 地域イベントへの参加
- ③ 地域住民に対し附属施術所のアピール
- ④ 各業界団体との関わりを作る

<特記事項>

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

授業内では超音波検査など、画像で判断できる知識や技術を身に付けさせることを本校の特徴でもある。附属施術所でも大いに活用していく。臨床サポート部門では担当先生とのグループ研修を進めていく。また、現場で働いている方を外部講師として授業の実施をおこない、卒業後に現場で活躍できる学生を育てる事を目標としている。学習サポート部門では退学者をできるだけ減らすことの補講や個人面談の質を充実させていくこと。。その為に、教員力が重要であり、アフターレッスンの必要性がある。学生に入学時の夢や目標を忘れさせない指導を行っているかないとならない。